

指導要綱

指導：謝豊地 正枝

課程：日語演劇(日本語学科三年生用・選択科目)

* 目的：既に学習した日本語を用いて、ある物語を実際の日常生活で起こったかのように舞台の上で他の演技者と一緒に演じて見る。そして、演技を通して舞台芸術性を養う。また、ある一つの舞台芸術作品を皆で制作するためには、全員の団結と協力とお互いに対する思いやりが必要なことを学ぶ。2011年～2012年用の演目は、平安時代の紫式部原作『源氏物語——玉鬘(たまかづら)の巻』なので、日本の古典文学の情趣を味わいながら舞台上で演技する。そして、皆と一緒に舞台芸術作品を制作する楽しさを発見して共有する。

* 公演予定日時・場所：2012年5月末日、於国立台湾大學第一学生活動中心

* 注意：Ⅰ. 今年、古典劇をする予定なのは、次の諸原因による。(1)過去三年間、現代劇が続いたから。(2)古典劇を上演する場合には、日本の伝統文化を舞台上で表現しやすいから。(3)この古典劇は二つの異なる舞踊が挿入されているため、日本語を舞台の上で話す自信がない学生でも、二つの舞踊にそれぞれ各6名、合計12名の女子学生が踊り手として参加することが出来る。(4)これらの12名の踊り手に加えて、登場人物は最低20名必要なので、合計最低でも32名前後の学生が舞台上で行う演技に参加することができる。(5)そのため、何らかの役を演じる演技者でも、舞台に出ていない時には、舞台裏の仕事を分担して行う。また、舞台上で用いる小道具類の製作等の仕事を分担して、皆で探したり、製作したりする舞台上で演技したり、或いは、舞踊をしたりする外に、舞台裏の仕事も各自分担して、皆で劇を制作していく楽しさを共有する。(6)舞台上で演技する女子学生の全員は、来年の5月末の上劇日まで、頭髪を肩の長さまで伸ばすこと。絶対、それ以上、短く切らないように気をつけること。平安時代の女性は髪が長かったので、「玉鬘姫」と妖怪に殺された玉鬘の母親である「夕顔」を演じる二人の女子学生のみは長髪の鬘をつけるから自分の頭髪は短くても構わない。でも、その他の女性の役柄を演じる演技者は、全て肩の長さがある自分の頭髪に「かもじ」を結び付けるため、髪が短過ぎると「かもじ」を結び付けられないから、髪を短く切らないこと。(7)自分の頭髪を肩の長さまで伸ばしたくない女子学生は男性の役柄を演じることができる。

Ⅱ. もし、このクラスを受講する三年生の学生の内、半数以上が「現代劇」をして見たいという希望があった場合には、9月末までに、必ず自分たちの好きな現代劇の脚本を探すこと。そして、この場合には、最終的には、古典劇と現代劇のどちらを演じるかを、皆で投票して決める。

学習形畫と進度予定表

第一学期	週	主な項目
9月	第二週目～ 四週目	1. 西洋劇の歴史やその劇が生み出された背景を理解する。 2. 日本の「能」や「歌舞伎」の舞台をDVDで鑑賞する。そして、西洋劇との違いを理解する。 3. グループ別に分かれて、中国及び台湾の代表的な劇の演目を紹介するため、これらの劇のポイントになる部分を演じ見て、互いに鑑賞

		<p>する。</p> <p>4. この二週間の間に各自、家で『源氏物語——玉鬘の巻』の脚本を読んで置く。</p>
10月	第一週目	1. 演目・脚本の決定 2. 台本読み
	第二週目	1. 台本読みの継続 2. 配役の決定(全ての登場人物は、脚本の最初の部分に掲載してある)
	第三週目	1. 各幕ごとのグループ別に、その幕用の舞台装置の絵コンテを描く。
	第四週目	2. 主な仕事を誰がするかを決定する。各舞台裏の仕事と各仕事に最低必要な人数:(1)舞台監督 1人、(2)助監督 1人、(3)演出係 2人、(4)大道具係 6人、(5)小道具係 6人、(6)照明係 2人、(7)衣裳係 4人、(8)化粧・鬘の係、4人、(9)音響係 2人、(10)翻訳係(脚本を部分的に分割して、クラス全員で翻訳したものを、全部まとめて、チェックする役)2人、(11)公共関係及び広告・宣伝係、(12)文書・ポスター作成などの美術係、4人、(13)会計係 1人。その他の仕事は、必要に応じて分担する。
11月	第一週	<p>1. 役柄に分かれて台本読み</p> <p>2. 舞いの練習——Aグループ:妖怪の怨念の舞 白い着物を着た4人の妖怪の霊が眠っている「夕顔」を取り囲んで「夕顔」を死に至らしめる踊り。Aグループによる妖怪の舞は、Bグループによる春の舞よりもダイナミック。</p> <p>3. 音響係は、舞台の幕開けの時に用いる音楽、及び、A、B、の二つの各舞いに用いる音楽を用意する。</p> <p>4. 会計係は日語劇公演用のための、日文系からの予算額を把握して、校外でどれ位の金額を集めなければならないか、予算案を立てる。これには、大道具係が絵コンテをもとに描いた、各幕、各場面の簡単な舞台設計の概略図が必要なので、11月中旬までには、それらの簡単な舞台設計の概略図を完了しておくこと(6人で分担して作成すること)。</p>
	第二週 中間試験— 筆試	舞台のスタイルや舞台裏の各仕事の内容や、「源氏物語—夕顔の巻」及び「源氏物語—玉鬘の巻」の内容を理解しているか、どうか、に関する基礎的な知識や諸問題に関する質問に答える。
	第三週～ 第四週	<p>1. 各幕ごとに分かれて立ち稽古を始める。</p> <p>2. 音響係は、既に用意してある音楽と、してない音楽のリスト作成。</p> <p>3. 舞いの練習の開始——Bグループ:春の舞(6名) 白い着物の上着を着て赤い袴を付けた6人(原作では8人)の美少女が髪に花の髪飾りを付けて舞う。背中に鳥の羽を付けて、金色の花瓶</p>

		<p>に桜を指したものを持って踊る3人と、蝶々の羽をつけて、銀色の花瓶に山吹の花を指したものを持って踊る3人、の計6人の美少女による春の舞。3. 美術係は「春の舞」に必要な「鳥の羽を左右3枚ずつ、計6枚」と「蝶々の羽を左右3枚ずつ、計6枚」を作成する。</p> <p>4. 11月末までには、舞台上で演技する学生の全部は、自分のセリフを記憶して、台本を見ずに演技できるようにしておくこと。</p>
12月	第一週	<p>1. 演技できる幕まで、通して稽古をしてみる。</p> <p>2. 音響係は各場面の音楽を用意しておくこと。</p>
	第四週	<p>1. 全部の幕を通し稽古して見る。</p> <p>2. 小道具係は、各場面に必要な小道具類をリストに作る。それらを各場面のグループの演技者と一緒に探す。探せない場合には、作成する。</p>
1月	期末点数	<p>1. 筆記試験ではなくて、一学期間のクラスでの参加態度や建設的な意見や劇のためになるよい考えを提案したか、どうか、グループ活動を皆でうまくできたか、どうか、によって成績を出す。</p> <p>2. 脚本を各部分に分解してどのグループがどの部分を冬休み中に中国語で翻訳しておくかを翻訳係を中心に決める。</p> <p>3. 照明係は舞台専門の照明をしてくれる会社とコンタクトして、見積書を貰う。最終リハーサル(公演の前日の夕方から)と(公演の一日中)の金額を計算して貰って、「見積書」を貰って来る。</p>
一学期の成績		<p>学期の成績の計算方法: 中間筆記試験 30%、期末点数 30%、クラスの出欠、クラスでの参加態度及びグループ活動における協力・協調性、等 40%、計100% 尚、学期の成績は、大学の教務の指示によって、「A+からC-」の各段階別に付けて、教務に報告する。</p>
冬休み		<p>1. 冬休みに練習するか、どうか、はクラス全体で決める。但し、大道具係、小道具係、衣裳係、音響係、の各グループの中で、冬休みに台北にいる学生は、指導教授と連絡を取り合って、仕事を進める。</p> <p>2. 特に、衣裳係は、冬休み中に登場人物の着る白い着物の上着、女性たちが穿く赤い袴、及び、男性が穿く指貫(さしぬき)を製作するのを手伝う。(そのため、衣裳係は台北市内・近郊に住んでいる学生が担当するのが、望ましい。)</p> <p>3. 必要な衣裳はできるだけ冬休み中に製作を終えること。</p> <p>4. 美術係は、ポスターの図案を冬休み中に作成して、二学期になったら、クラスに持参して皆に見せること。</p>
第二学期 2月	第一週～第四週	<p>1. クラスの全部の学生は、自分に割り当てられた翻訳を打ち込んだ、リムーバル・ステイックをクラスに持ってくること。そして、翻訳係のコンピューターに翻訳資料を移し替えること。</p> <p>2. 全幕、A、Bグループによる二つの舞の練習。</p>

		3. 舞台用照明の専門会社に公演の前日の夕方からと、公演の日、一日中の予約を入れる。4. 翻訳係は朱秋而助教授に翻訳のチェックを早めに依頼すること。
3月	第一週～ 第四週	1. 小道具は全て揃える。探せなかった物を皆で製作する。 2. 化粧・髪係は、「かもじ」を注文しておく。 3. 演技者は自分で白い短い靴下を容易すること。 4. 制作者は、マイクを貸してくれる会社との借りるマイクの数量、借りる日時などの交渉と予約をすませる。 5. 各場面別のグループに分かれて、演技、舞の練習を継続する。 6. ポスター、招待状の作成完了の予定。 7. 大道具類で、皆で製作できるものの製作を完了する予定。
4月	第一週～第 四週	1. 音響効果とともに、通し稽古完了。2. 各場面別のグループに分かれて、演技、舞の練習の継続。3. 衣裳製作、全部完了する予定。4. 大道具の製作の進み具合をチェック。 5. ポスターを印刷、構内や主な店などに貼り出し完了。 6. 招待状を印刷し、各大学に発送完了。
5月	第一週～第 三週	1. 音響効果とともに、通し稽古完了。2. 大道具製作完了。 3. 照明の専門会社との「最終リハーサル日時の予約」確認。4. マイクを貸して貰う会社との予約と日時の確認」。
	第四週	1. 最終ドレス・リハーサル 2. 公演(昼夜一回ずつ、計二回)
6月	第一週	1. 反省会 2. 食事会
第二学 期	成績	演技、声量、表現、などの良さ、劇制作全体に対する参加態度及び貢献度、などを総合的に評価して、A+からC-までの評価別に、第二学期の成績として教務に提出する。